

地域社会貢献

大目標：地域社会の一員であることを自覚し、すべての人の健康と、働きがいのある地域社会の構築に貢献する。

※テーマをクリックいただきますと詳細をご確認いただけます。

テーマ	SDGs該当目標	2024年度実績
病気と就労の両立支援	 	■両立支援に関し、脳卒中診療ガイドラインへの掲載はないが、多発性硬化症・視神経脊髄炎ガイドライン2023には両立支援に関する項が設けられた。 ■「両立支援外来」を開設している他医療機関は少ないが、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院における両立支援外来は順調に件数を延ばしている。 ■リハビリテーション関連学会・認知症関連学会における講演の機会も増え、企業主催の研究会での講演も増えており、社会に浸透しつつある。
医療福祉相談	  	■昨年度の相談総数は5,260件であり、うち両立支援は120件であり、治療を継続しながら働き続ける困難や、職場との具体的調整、付随する経済的課題に対応した。両立支援コーディネーターは7名在籍している。 ■虐待予防活動として、院内職員向け研修を1回実施。川崎市より川崎市虐待防止医療ネットワーク事業の委託を受け、拠点病院として市内医療機関の虐待防止対策の向上に向け、講演会や事例検討会等を企画・開催した。
児童虐待等社会課題への取組強化	  	■虐待防止委員会を年6回開催するとともに、「児童虐待防止推進月間」である11月に職員研修会を主催した。 ■また、川崎市児童虐待防止医療ネットワーク事業（KCAP）の委託を受け、本学にて研修会1回および医療機関向け児童虐待対応啓発プログラム(BEAMS)7回を開催した。 ■院内外職員対象に性虐待への対応力向上を目的に被虐待児診察技術研修を1回実施した。
医療体験「メディカルキッズ」	   	■2024年8月3日(土)に「第16回医療体験メディカルキッズ」を実施した。小学4年生から6年生までの児童56名が参加し累計参加者は492名になった。 ■今年度は居住地域を限定せず、募集人数も30名から60名に増やした。 ■例年人気の「聴診器づくり」やシミュレーターを使用した「みんなで助けよう」などに加え、新企画である「車いす介護体験」、「のぞいてみよう顕微鏡」の計6プログラムを用意した。 ■スタッフとして教職員31名に加え、本学医学部学生と看護専門学生17名も参加した。 ■参加者アンケートでは回答者の86%が「非常に満足」と回答した。さらに、回答者全員が「やや満足」以上の回答となり、満足度の高いイベントと評価された。その他、「子どもも親も楽しめました」、「職業への憧れや尊敬が一層増した様子でした」といった感想が寄せられた。